

サワラの資源回復の取り組みを出前授業で紹介

平成27年10月20日に岡山市立可知小学校で、県が取り組むサワラ資源回復について出前授業を行った。

授業では、卵から稚魚になるまでの一番弱い期間を人間の手で育て、ある程度大きくなってから海に放流し、自然の海で成長したものを漁獲する、栽培漁業の工程を説明した。

サワラはどう猛な魚種であり、飼育の際にエサが不足するとすぐに共食いを始めてしまう。そのため日出から日入まで、絶えずエサをやり続けなければならないなどの、現場ならではの苦勞を紹介した。

また、備前市の日生町漁協が取り組むサワラ稚魚の中間育成（生産した稚魚を、より自然に近い環境で更に大きく育てること）、瀬戸内海全域での禁漁期の設定や刺し網漁具の目合い拡大による小型魚の保護等、漁

業者の取り組みを紹介した。

このような関係者の努力があつて、かつては200トン以下にまで落ち込んだ、瀬戸内海のサワラの漁獲量は平成25年には1,782tまで回復している。

児童たちは最後まで真剣に話を聞いてくれた。今度サワラを食べる時、少しでも授業のことを思い出してもらえれば幸いである。

水産研究所では、このような出前授業や研究所の見学の受け入れを積極的に行っている。希望があれば遠慮無く連絡をいただきたい。

(資源増殖室：竹本)



写真1 サワラ



写真2 授業の様子